

令和元年度

委員会だより

N0.2

## 子育て委員会編

北海道PTA連合会

令和2年1月21日（火）

令和元年12月7日（土）に第2回子育て委員会が開催され、地区子育て（母親）研修会の実施状況の交流やグループに分かれての研究内容の交流、令和元年度のまとめ等についての研究協議そして道P連ホームページ内「母親のつぶやき」の投稿研修などを行いました。

令和元年度 子育て委員会 研究のまとめと（次年度の方向性）

### I. 今年度の研究テーマ

- ◎ 全道統一スローガン 『今 ころ輝いて 親として 人として』
- ◎ 今年度の研究テーマ 『豊かな心をもった子どもを育てる母親のあり方』

### II. 成果と課題等

#### 1 子育て委員会の活性化と組織の充実のあり方

##### 〈成 果〉

##### ○講演内容やテーマの組織的な選考と決定

- ・本年度は会員からの子どもの片づけに関する悩み、困り感を受け、子育て（母親）委員会役員を中心に協議し講師を選定した。
- ・子育て（母親）委員会の総会などで、研修会の内容について意見交換した中で、整理収納に関するお話を伺いたいという意見が大多数のため、今回の講演会に決定したところである。
- ・例年、総会の中で講演内容について協議しており、要望どおりのテーマにしたことから会員からも大変好評であった。
- ・講演の内容について次年度も日常生活に取り入れやすい内容のものを求める声が多かった。

##### ○研修会の形態や活動の工夫（分科会・グループワーク・体験的な活動等）

- ・役員が6つのグループに分かれ、各分科会の概要を検討し、講師を選定した。
- ・子育て（母親）研事務局から分科会テーマに合わせて講師を選定、テーマごとの「聞きたい内容」を集約し講師へ事前に伝えた。
- ・楽しむことを前提に、体験的な内容になるよう決定した。ひとつの分科会に担当を3～4名とし、各単P・研修活動の参考になるもの、自身がやってみたいものを子育て（母親）委員が考え、決定した。
- ・講演後のグループ交流では、「振り返り」の行動として、他市町の会員同士による「子育て」に関する意見交換を行い、より交流が深まった。

- ・話題提供に基づくフリートーク形式によるグループ討議が参加者に好評である。
- ・各町村からの参加者が、体験活動を通して交流を深める姿が見られた。
- ・分科会アンケートには「グループワーク楽しかったです。」「あつという間に時間が過ぎる程、集中できて良かったです。」など、肯定的な意見が多かった。

## 《課題》

- ・子育て研修会を単独開催することが厳しい。
- ・連Pにお願いしているので、講師の選定が決まっていることが成果でもあり、課題でもある。
- ・主題が7つも設定されているので、絞ったほうが話しやすいとの意見もある。
- ・都市部と農村部で地域性が異なり、共通の課題意識をもてない部分もあった。
- ・調理する部屋の大きさに限りがあり、募集人数を30名と限定する必要があった。
- ・参加人数と会場の兼ね合いから、分科会4つが望ましいが、講師の選定が課題である。



## 《成果》

### ○子育てに関わる研修の充実

- ・講演内容については、実践的な話が聞けた。父親と母親が共同して子育てする大切さを再確認した。
- ・研修会当日は、絵本を題材にしながら、グループの中で「わが子の良いところ」「PTA活動に参加して良かったこと」などを交流しながら、「母親の役割とあり方」について考えを深めることができた。
- ・教育講演会の内容が、「子育て」に関わることということもあって、参会者にとって大変興味深い話だった。ついつい大人が子どもに言ってしまうことが、実はそれほど効果的ではなく、話し方や言葉をかえることで、子どもの成長を促すことにつながるということを学ぶことができた。また、講演の中には、感動的な映像やシンク・ペア・シェアという手法の活動が取り入れられていて、もあつという間の90分だった。
- ・参加した皆さんが、研修会を笑顔で終え、アンケートも全体会、分科会とも高評価で大きな成果を実感した。主題趣旨の中にある「大人が笑顔になって子どもたちに最高の贈りものをしましょう。」という願いのもとに開催されましたが当日参加者のたくさんの笑顔を見ることができたことが何よりの成果だと思っています。
- ・講演会は、講師先生の子育てについての工夫や考えなどのお話で、共感できる内容だったため、講演会参加者から好評だった。
- ・この研修会の参加者は子育てに対する意識が特に高く、いろんなアンテナを立てて情報を収集し、関心をもっていることが伝わってきた。アンケートなどを参考に、参加者が関心を持ち、より学びたいと思える研修会をこれからも目指したい。
- ・野生動物の子育てを通して、人間の子どもをどのように見るか、現在の教育の課題点が明

確になった。

### ○現代の新しい課題についての研修実施

- ・LGBTに関わる分科会を設け、タイムリーな情報を取り入れたことも良かった。

### ○地域と連携した研修内容の選定と決定

- ・各地区の教育局、教育委員会、子育て推進協議会また同地区のPTA連合会と連携して、講師を選定したり、研修テーマ等を設定したりしている地区が多い。
- ・町の子育て支援の取組やシステム、施設や活動を他町村に紹介することができた。

### ○地域性や人材を生かした研修の実施

- ・地区研究主題を鑑み、歴史的価値のある文化や民俗芸能の継承や子育てについて参考となる内容について町P連役員で協議し、決定した。
- ・民俗芸能が地域を強く結びつけ、子どもたちは親や教師以外の大人達とも深く関わり合える。加えて、地域の特産ともいえる伝統芸能を受け継いでいくということは、子どもたちの自信と誇りになっていくのは、お話の通りだと思います。
- ・過去の研究成果と実践の上に立ち、地域性にに基づき、家庭、学校、地域社会の連携の中から今日的課題の解明及び社会の変化に適切に対応できるPTA活動の充実を図るための内容とした。
- ・今回の講演内容から、子どもたちの夢を叶えるためには、子どもたちが最後までやり遂げることが大切であり、地域をあげて子どもの心を育て、夢を育て、ふるさとを愛する人を育てることが重要であることを共有することができた。
- ・子育てのために地域として何をすべきか、PTAとして何をするか考えるよいきっかけとなりました。
- ・今後推進していく「小中一貫教育」や「コミュニティスクール」について講演をいただくことにより、PTA会員がより理解が深まり、参考になるところが多々あった。

## 2 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

### 《成果》

#### ○食生活に関わる研修の充実

- ・講演が好評で、「食について改めて考えるよい機会になった。」、「食の大切さを改めて見直す気持ちになった。」「食生活を見直し子どもの成長の手助けになれるよう心がける気持ちになった」などの参加者の声が寄せられた。
- ・毎日の食を負担のない方法で改善していくヒントを得ることができた。
- ・「まごワやさしいこ」を元に、日常の食生活を見直し、子どもの成長に必要な栄養を考える機会を与えられて良かったという感想が多かった。

#### ○地域の食材を生かした調理体験の実施

- ・地域の食材を生かした体験活動の実施を軸に、本町にある会社を講師に特産物を生かした内容とした。
- ・地域の特産物をより手軽に調理する方法をお知らせするとともに体験することができた。

### 《課題》

- ・「健康・食育」の分科会に母親研修委員会を位置づけている。今後はこのまま継続していくのか、違う分科会テーマに移行するのかは検討が必要と考えている。

#### 《成 果》

##### ○情報メディア等と子育てについての研修の実施

- ・小中学生のゲーム機器やスマートフォンをはじめとする情報端末の利用に関わり、日常生活習慣の改善について講演をいただいた。子どもたちが身に付けなければならない資質・能力の観点から、成長段階における悪影響等についての内容であった。今後の親子間での会話のテーマの一助になるものであった。

### 3 子育て委員会発の話題提供源としての広報活動

#### 《成 果》

##### (1) 道P連のホームページを活用した継続的な情報発信の推進

- ・「母親のつぶやき」に積極的に投稿される方（地区）もあり、各地区の情報がタイムリーに発信され、話題提供源としての役割を果たした。
- ・第1回・第2回の子育て委員会の中で、投稿の仕方の研修を行い、委員会の感想等を投稿した。

##### (2) ブロック・各地区・単位PTAの活動状況内容の収集と話題提供・情報の共有化

- ・各地区において、道P連ホームページ（PTAT、母親のつぶやき、お知らせ等）の周知を図っている。
- ・各地区では、道P連や他ブロック・他地区の活動のようすを定期的に関覧する地区もあり、自分の地区の取組の参考にするなど活用している。

#### 《課 題》

- ・まだまだ、HPの存在を知らない方も多数いられるので、周知の必要性を感じる。今後も投稿・閲覧の呼びかけを行っていく。
- ・会員自ら参加・運営するHPの取組を次年度の会員へ引き継ぎ、広めていくことが大事である。

## III 次年度の方向性

### (1) 子育て（母親）委員会の活性化と組織の充実のあり方

○今年度、母親委員会から子育て委員会に名称が変わったことを受け、家庭・学校・地域全体で、子どもたちを育むという視点から、委員会の活動の活性化に努める。

○地区別の子育て研修会における委員の活動を積極的に進めるために、今後も委員会の構成や取組等について情報交流を行っていくとともに、活動の目的・趣旨等の共通理解に努める。

○全道各25地区の子育て委員はじめ北海道全体にPTA活動が浸透していくように、各地区別の研修会や道Pの会議や研究大会への積極的な参加を呼びかけるとともに、ホームページの充実を図り、閲覧・投稿等の呼びかけを行い、組織や活動の活性化を図る。

### (2) 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

○社会の状況が複雑になっており、子育てに悩む親は多い。悩みを家庭内だけで抱えるのではなく、多くの人と悩み等を共有して、意見交流の場を設定したり、地域や関係機関とも連携できるように情報等を発信したりする。

○各地区で、望ましい家庭教育の在り方を追求することができるよう、各地区の研修会等の取り組みを交流し、参考資料として整備していく。

### (3) 子育て委員会発の話題提供源としての 広報活動

○25地区の子育て委員が中心となり、道P連のホームページを活用した継続的な情報発信を推進する。

○ホームページの周知、閲覧の積極的な呼びかけをし、活用促進を図る。

○母親のつぶやきで身近な情報発信と情報共有を図る。



北海道PTA連合会事務局



〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目 STV時計台通ビル6階

TEL (011) 251-6937 FAX (011) 210-0929

Eメールアドレス info@hokkaido-pta.jp